

【ポスター発表】

## 「社会福祉士」資格取得のための実習経験が社会性の形成に与える影響の研究

○ 早稲田大学 多賀努 (会員番号 008650)

キーワード3つ：社会福祉士 現場実習 社会性

## 1. 研究目的

本研究は、社会福祉士国家試験の受験資格要件である実習体験が社会性の形成に与える影響を検証することが目的である。

「社会福祉士」資格の大きな特徴は、180時間（おおむね25日間）の現場実習を義務づけられていることである。福祉系のインターンシップは有償ボランティアに近く、与えられる役割・提供される情報・利用者等の個人情報への接近等は、実習生とインターンシップの学生のあいだで大きな差があることが多い。実習生は、職員とともに行動し、職員と一日のふり返しを行うことを通じて、職員の持っている知識・技術・情報を共有・継承していく。実習生は毎日、実習日誌を書くことが求められ、そこで一日のふり返しを言語化する。現場実習は単なる職場体験ではなく、自己を内省する機会にもなっている。そのため、実習後の学生の人間的な成長は著しく、実習が「社会福祉士」の資格取得に必要な現場経験を積むだけでなく、社会性をかん養する場にもなっているという実感が実習担当教職員の側に強くある。社会性は、社会人にもっとも求められる資質の一つである。

そこで、本研究は、「社会福祉士」の資格取得の要件となっている現場実習が、学生の社会性の変化に与える影響に焦点を当てる。実習生は未だ経験したことのない状況、不十分な知識・経験のなかで、職員・利用者に対して適切な対応・行動をしなければいけないという、きわめてストレス価の高い状況に置かれる。社会性の変化は、こうしたストレス状況にさらされるなかで社会的な適応力を身につけていった結果と考えられる。本研究では社会性を社会的な適応力と見なし、実習前後の社会的な適応能力の変化を検証する。

## 2. 研究の視点および方法

社会的な適応能力の指標として（1）内的不安へ対処する能力、（2）社会的な自己を調整する能力、（3）メタコミュニケーションを確立する能力を測定し、実習前後の変化を検証する。対応する尺度として、（1）Generalized Anxiety Disorder -7（GAD-7）日本語版、（2）自己愛人格目録短縮版（Narcissistic Personality Inventory；NPI-S）日本語版、（3）自閉症スペクトラム指数（Autism-Spectrum Quotient；AQ-J）日本語版を利用する。調査は実習前後の2回実施し、調査対象者は同一の質問紙に自記式で回答する。

### 3. 倫理的配慮

本研究は、早稲田大学倫理審査委員会の承認後に実施した。調査対象者は、研究参加が任意であること、侵襲性はないが心理的負担・不快を感じる場合があり中断した際の回答は廃棄すること、個人情報連結可能匿名化等によって管理すること、研究成果は個人情報が特定されない形で学会・学術誌等に発表することを了承した上で質問紙に回答した。

### 4. 研究結果

調査はA大学の実習生を対象とし、実施時期・回答者数は、実習前 2015 年 7 月（回答者 17 名）、実習後 10 月（回答者 24 名）、実習前後のいずれも回答した数は 16 名であった。3つの尺度のいずれにおいても実習前よりも実習後の数値が向上する傾向が見られた。

(1) 内的不安へ対処する能力：Generalized Anxiety Disorder -7 (GAD-7) 日本語版

実習前後で 16 名のうち 13 名の数値が向上した。実習前後の変化を回帰分析し、実習効果を予測するモデルを作成したところ、係数  $a=.66$  ( $t<.000$ )、調整済み決定係数  $R^2=.56$  ( $F<.000$ ) が得られた。

(2) 社会的な自己を調整する能力：※自己愛人格目録短縮版 (Narcissistic Personality Inventory ; NPI-S) 日本語版

実習前後で 16 名のうち 7 名の数値が向上した。同様に、実習効果モデルを作成したところ、係数  $a=.69$  ( $t<.000$ )、調整済み決定係数  $R^2=.63$  ( $F<.000$ ) が得られた。

(3) メタコミュニケーションを確立する能力：※自閉症スペクトラム指数 (Autism-Spectrum Quotient ; AQ-J) 日本語版

実習前後で 16 名のうち 12 名の数値が向上した。同様に、実習効果モデルを作成したところ、係数  $a=.78$  ( $t<.000$ )、調整済み決定係数  $R^2=.77$  ( $F<.000$ ) が得られた。

### 5. 考察

実習前後で内的不安へ対処する能力、メタコミュニケーションを確立する能力の向上が 7 割以上の学生で見られ、実習経験が本研究の措置する社会性をかん養する可能性が示唆された。

さらに、実習中の問題が予見された学生について実習前後の数値を個別に検討した。その結果、これらの学生の内的不安へ対処する能力・メタコミュニケーションを確立する能力は、実習前の数値がきわめて高かったが実習後に改善していることがわかり、実習困難が認められる学生に対する実習の暴露効果が確認された。また、実習中の問題が予見されなかったが実習中に問題が生じた学生 1 名は、実習後の回答のみだったが内的不安へ対処する能力の数値が極めて高かった。実習中の問題を予見する手がかりとしての有用性も示唆された。一方、実習後に内的不安へ対処する能力の数値が悪化した学生が 1 名いた。実習経験の負の効果およびこれらの手がかりが万能でないことも示唆された。